好きと得意の相関性

宮城県仙台第三高等学校　　52 班

私たちは教育の効率化を目指し探求活動を始めた。孔子の「好きこそものの上手なれ」という言葉から着想を得て、好きなことほど記憶に定着しやすいという仮説を立てた。先行研究により好きな教科と授業の理解度には 0.5~0.7 の相関係数があることが分かった。また、大学を訪問し専門の先生から勉強効率を上げるためには「動機」が重要だと伺った。これらを踏まえ私たちは「多読」が一番効率の良い動機づけになると結論づけた。今後は多読による効果の検証をしていき、より確立した方法を見つける必要がある。

キーワード：好き、内発的動機づけ、多読

Ⅰ．はじめに

私たちは勉強効率の向上を探求の目標とし探求活動を開始した。探求を進める際に孔子の「好きこそものの上手なれ」という言葉を見つけそこから着想を得て好きな教科と得意な教科には相関があると推察した。実際、我々が生活の中で好きなことほどのめり込めたり高い集中力を保てた経験は誰しもがあると考える。そこで「好きな教科は記憶に定着しやすい」という仮説を立て検証することにした。

Ⅱ．先行研究

ⅰ）好きと授業の理解度について

ベネッセ総合教育研究所（以下ベネッセ）からのデータを参考にした。図 1 は授業の理解度を示したグラフ。図 2 はその教科が好きであることを示したグラフとなっている。これらのグラフより好きな教科と答えた割合が一番高い社会では理解度も同様に高い傾向になっている。よってこれらの関係には強い相関があることがわかる。また出典元であるベネッセに直接問い合わせたところこれらは 0.5~0.7 の相関関係があると回答を頂いた。これより仮説であった「好きな教科は記憶に定着しやすい」が立証された。

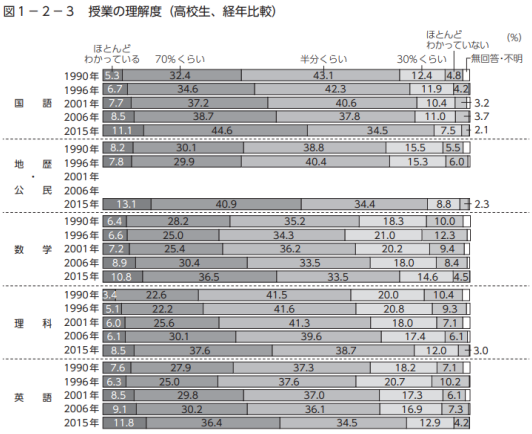

図 1

ⅱ）内発的動機づけについて

前項目を受け新たに「好きと得意の相関がなぜ起こるのか」という仮説を立てた。

2022 年 12 月に行われた本校の修学旅行にて京都教育大学で脳科学を専門とされている赤松大輔さんにお話を頂いた。

1,認知能力と非認知能力

前者は学習の結果獲得された知識のことを指し後者は好奇心や粘り強さなどを指す。非認知能力は非常に広範な概念であり動機づけはこれに包括されたものである。

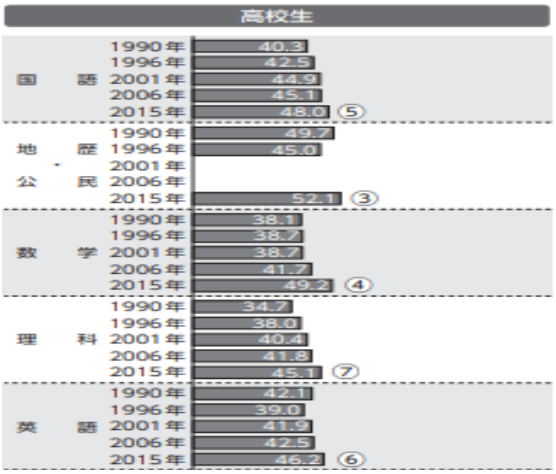

図 2

2,内発的動機づけと外発的動機づけ

動機づけはしばしばやる気やモチベーションと言われることも多い。そして動機づけには良い効果をもたらすものと悪い効果を持つ 2 種類存在する。

・内発的動機づけ
活動に対する好奇心や興味によって生じる動機づけのことであり、活動を行うこと自体が目的となっていることを指す。

・外発的動機づけ
賞罰や強制といった外部のからの働きかけによってもたらされる動機づけのことであり、活動を目的の手段として行っていることを指す。

3,内発的動機づけの効用

内発的動機づけと外発的動機づけを比較した際に一般的に内発的動機づけが望ましいとされる。効用としては

・活動に対して粘り強く取り組むことができる
・創造性を発揮できる
・深い認知処理を行える

ことがわかっている。また、成績の伸びにも影響することがわかっている。

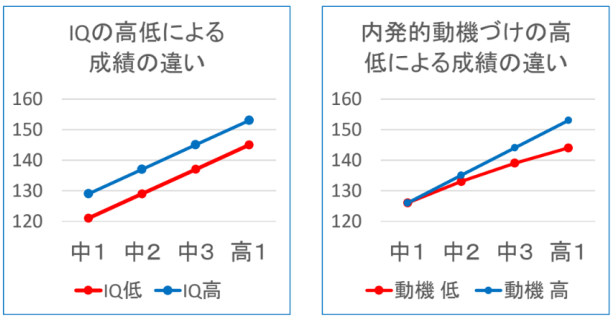

図 3

図 3 の左側では IQ の高低によらず、内発的動機づけを行ったグループは成績が同水準で上昇している。右側では同じ IQ だった 2 つのグループを比較し、内発的動機づけを行ったグループがそうでないグループに比べ成績の上昇が著しいことがわか
る。

4,動機づけの質的変化

内発的動機づけは優れているが維持することは難しい。実際には、人は内発的動機づけと外発的動機づけの間を揺れ動いてるという考え方が定説になりつつある。それが自己決定論という考え方である。
自己決定論とは、人間の動機づけに関する基本的な理論であり、活動において自己決定することが高いパフォーマンスや精神的な健康にもたらすという理論であり、内発か外発かを重要視する段階から「自己決定論」を重視する段階へシフトしつつある。

5,自己決定論

非動機づけ、外発的動機づけ、内発的動機づけ
の 3 つを自己決定権の程度で連続しているものとみなす。自己決定権の高い動機づけの方がより質の高い動機と考え、自己決定論では外発的動機づけでも自己決定性の程度によって細かく区分される。

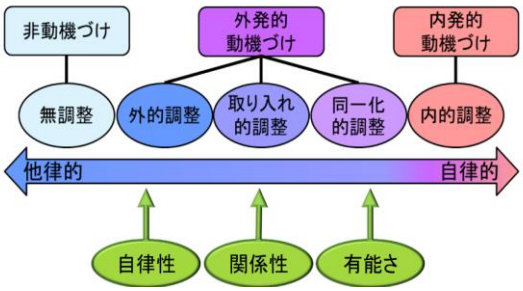

図４　自己決定理論：外発的動機づけの連続性

無調整（非動機づけ）
・活動に対して価値を全く見出しておらず、行為をしようとする意図が著しく低い状態

外的調整
・やりたくないけど、やらされている状態
・賞罰などの外的な圧力によって行動が起きる。従来想定されていた「典型的な」外発的動機づけ

・個人にとって、活動の価値・重要性が理解され、受け入れられている状態。より大きな目標を達成するために重要であるから行動する
・将来教師になりたいから教職の授業を取る，など

内的調整（内発的動機づけ）
・内発的動機づけによって行動している状態を指す
・最も自律性の高い状態

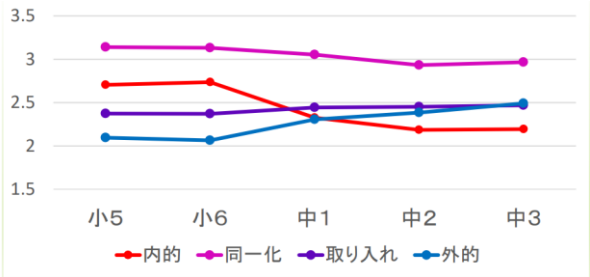

図５ 動機づけの発達的変化：学習

取り入れ的調整
・外的調整よりは自律的・活動の価値が，自分の中にある程度は取り入れられている状態義務や罪悪感，恥の感覚を伴う。

同一化的調整

・内的は小６から徐々に低下。外的も小６→中１で低下
・同一化は中１に上昇。同一化・取り入れともに中１がピーク
・学年に伴い無目的的な動機が低下，目的的な動機が上昇

Ⅳ.考察
　これらを踏まえ「多読」を推奨する。
（ここで言う「多読」は文字通りたくさん本を読むことを意味する。）

・小６・中１の間に、内的が低下、外的が上昇
・同一化はゆるやかに低下（取り入れは上昇）

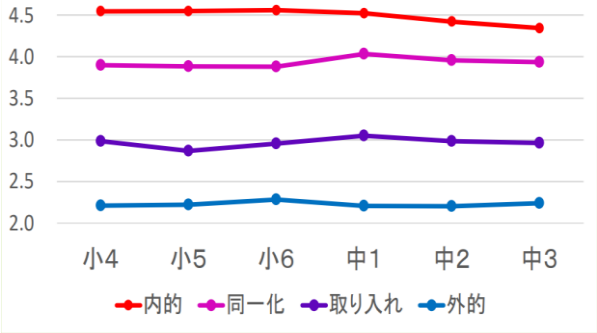

図６　動機づけの発達的変化：友人関係

探求の最終地点である教育の効率化の達成のめに図４の内的調整を引き出すことが重要である。その点において多読は自発的な行動を促す。資格勉強を例に挙げる。自分の目標に合わせて計画を立て参考書を自分で選択し使用する。このサイクルは強制されたものではなく自発的なものである。また、多様な種類の本を読むことで知識が増え内的調整が起こりやすい状態を作れることが見込める。

Ⅴ.まとめ

勉強効率を上げるためには内的調整を引き起こすことが重要である。これに対し「多読」が有効であると考える。内的調整が起こる経験、知識をつけ内的調整が起こりやすい環境を作ることで効率化が見込める。

参考文献

図 1,図 2「第 5 回学習基本調査」報告書 [2015]

図 3 Murayama, K., Pekrun, R., Lichtenfeld, S., & Vom Hofe, R. (2013). Predicting long-term growth in students' mathematics achievement: The unique contributions of motivation and cognitive strategies. Child development, 84, 1475-1490.

図 4Ryan, R. M., & Deci, E. L. (2000). Intrinsic and extrinsic motivations: Classic definitions and new directions. Contemporary Educational Psychology, 25, 54-67.

図 5 西村 多久磨・櫻井 茂男 (2013). 小中学生における学習 動機づけの構造的変化 心理学研究, 83, 546-555.

図 6 山本 琢俊・上淵 寿 (2020). クラスメイトとの関係に対する動機づけの発達的変化 日本発達心理学会第 31 回大会

V.まとめ

参考文献